

んらの変化のみられなかったことをここに記しておく。

(Department of Botany, The University of North Carolina, Chapel Hill North Carolina 27514, U. S. A.)

**○アサクラザンショウ、ブドウザンショウの栽培と利用 (佐々木一郎) Ichiro SASAKI: Propagation and utilization of Asakurazansho and Budouzansho, the cultivars of *Zanthoxylum piperitum*.**

奈良県や和歌山県では、生薬や青果物としての山椒の栽培が盛んで、特に奈良県吉野郡、和歌山県伊都郡がその主産地である。山椒は果皮を生薬や粉山椒とし、幼果、雄花、若葉を佃煮とし、実生 1~2 年の小苗は冬季に室に入れ、若芽を芽山椒といって、つまみ物とし、刺の多いこぶの多い幹は人形やすりこぎにされる。

上記の土地で栽培されるサンショウは、刺の無いアサクラザンショウか、殆んど刺の無いヤマアサクラザンショウ系統のものである。これ等の苗作りは殆んど接木によるもので、良い系統のアサクラザンショウを無性繁殖したものである。最近では昔の様に雌本のみ繁殖でなく、雄本も花の佃煮を観光地で販売するため栽培されている。雌本は果実が 7 月頃迄青く種子の黒くなるのがおそい種類で、この方が八百屋や生薬としても高価に取引されるのである。

最近ではブドウザンショウとよばれる栽培品種が植えられている。この品種はアサクラザンショウより葉は少し大きく、ややしだれ気味で、繁殖は 9 月中旬頃に芽接するか、春に切り接をして居るが、主に芽接で苗作りをしている。1 年目は普通のサンショウの様に刺が出るが、2~3 年苗では刺が無く、この果実の房はアサクラザンショウよりも大きく、粒も多くて、果実を乾燥するとアサクラザンショウの果皮より厚く乾燥歩留りもよい。今後はこの品種がアサクラザンショウに置き替えられる品種の様に思われる。

(津村研究所)

**○傾光植物、非傾光植物の開花について (柳沢新一) Shinichi YANAGISAWA: On the flowering of photonastic and non-photonastic plants.**

ムラサキカタバミ、カタバミ、ハコベ、ツメクサ等の 10 数種の傾光植物に於ては、開花は天候に左右され、快晴、晴、薄曇には開くが、曇、雨天にはとじる。そして夜間開花は見られない。ところが、キク、ツバキ、シロウメ等の 163 種の大部分の一般植物は、天候に左右されず開花し、かつ夜間開花が認められる。シロウメに就いて見ると、花時計が示す様に開花するのは、日中の日の出ているときだけでなく、夜 12 時にも開き、午前 3 時にも半開となるものが加っていることが確認出来る。つまり一般植物は光に鈍感であり、天候によって受ける光の強さに影響されることなく、夜間にも開花が見られるのである。それからもう一つは温度に不敏感なことが挙げられよう。それに関係していると思われるが、45 年の春の寒気に対して、傾光植物は開花が 10 数日遅れたのに対し、一般植物は数日遅れたに過ぎず、鈍感そのものであることが判る。夜間開花の特例としてオシロイバナが数えられるが、これも夜間に開花する以外に、日中の雨天にも開くこと、並びに低温のとき開くことが認められるのである。これらから一般植物即ち大部分の植物の花は、光の影響があまりなく、且つ、温度にも鈍感であることが知られる。その結果、夜間開花という現象が見られるのであると考えられる。

(前埼玉果蚕業試験場技師)